

(別記)

令和元年度みよし市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

みよし市は、ほぼ平坦地で水田農業が盛んとなっており、主力は水稻、麦、飼料用米である。麦は一部団地化され担い手による作付が進められている。

都市型農業のため兼業農家が大半を占め、後継者不足が課題となっている。また、未整備の農地があり受け手のない状況が散見されている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米、米粉用米

飼料用米・米粉用米は、重要な転換作物としてとらえ作付面積を維持・拡大していく。また、水田をフルに活用するため麦あとに作付された飼料用米・米粉用米について現行の面積を維持・拡大していくこととする。主体は飼料用米であるが、実需者の要望に応えるため米粉用米も取り組むこととする。

イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組めるため、平成 25 年度から取組を開始したところである。現行の面積を維持していくこととする。

(3) 麦

団地を維持し収量の確保と高品質生産を今後も続けていくため、また、収量・品質を向上させるための明渠排水の敷設または設置を推進し、栽培面積を拡大していくこととする。

(4) 大豆

水田をフルに活用するため、麦あとの作付を推進していく。

(5) 飼料作物

地域の実需者との契約に基づき、求められる数量を作付していく。

(6) 高収益作物（園芸作物等）

販売目的での野菜・花きの作付については、栽培面積の拡大を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 30 年度の作付面積 (ha)	平成 31 年度の作付予定面積 (ha)	2020 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	239	238	223
飼料用米	63	64	73
米粉用米	—	0	1
新市場開拓用米	—	—	—
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	0	1
備蓄米	21	19	22
麦	38	41	44
大豆	0	1	1
飼料作物	1	1	1
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	32.9	34	36
・野菜	31	32	33
・花き	1.9	2	3
・			

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	野菜、花き	高収益作物に対する 助成	野菜取組面積	(30年度) 4.1ha	(2020年度) 7.0ha
			花き取組面積	(30年度) 0.2ha	(2020年度) 0.5ha
			計	(30年度) 4.3ha	(2020年度) 7.5ha
2	麦類	麦類の団地化（1ha 以上）、品質向上 に対する助成	作付面積	(30年度) 37ha	(2020年度) 44ha
3	飼料用米、米粉用 米	水田フル活用による 飼料用米・米粉用米 の品質向上に対する 助成	飼料用米作付面積	(30年度) 63ha	(2020年度) 69ha
			米粉用米作付面積	(30年度) 0ha	(2020年度) 1ha
			計	(30年度) 63ha	(2020年度) 70ha
4	麦、飼料作物、大 豆	麦、飼料作物、大豆 による二毛作に対す る助成（二毛作）	麦取組面積	(30年度) 36ha	(2020年度) 44ha
			飼料作物取組面積	(30年度) 1ha	(2020年度) 1ha
			大豆取組面積	(30年度) 0ha	(2020年度) 1ha
			計	(30年度) 37ha	(2020年度) 46ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり